本年内に　珍田駐英大使に其旨を訓
了せしむる筈なりと而して
を確保し支那の獨立及領土保
義を確實にし以て其共通利益
頭土權を保持し其地域に於
的とするものにして純然たる平
條文の上に於て新に成立し
この疑間なきに非ざるを以て此等
之を削除する筈なり而して一方露
も貢獻する所なる可く全國の英國
並其の他世界平和に貢獻すべき事項
求援問題の起れる以前より

力の何れかに
策を樹立せねば
と結合すべきや
盟國たる故を以
を持續し得る
であって米

○現在
相了解し

『怠業』の武器を以て當局の嚴戒に對峙す

表面だけは兎も角平穩な製鐵所

出勤數は平常より良好とある

十日の製鐵所内各工場は平穩で九日夜勤は二千九百六十七名十日朝は一萬三百十七名の職工出勤し休業者は總人員の一割強で平日の缺勤者二割に比較し出勤率良好の成績を示してゐる、南副參事は「警戒は尚數日繼續する必要がある目下職工の平穩なのは警戒が嚴しい爲で警戒の手を緩めたらば又復騷擾を惹起するに違ひない」と語り職工側では「吾々は申合せ九日以後はなるべく出勤し暴擧に出づる事は止め**但仕事は從前の如く勉勵しない**こと尚若し警官が強制的に仕事を強たなら働けば事件決後罷られると言抜け出來る限り怠業を續けて製鐵所當局に對峙することになつてゐると語つてゐた(八幡來電)

芳一は十日午前十時、吉村以下四名は同午後三時いづれも自動車にて小倉檢事局へ送致された(八幡電話)

辛い哉警官

連日の疲勞と食糧の粗惡は卒倒者を出すに至つたので

不平は遂に勃發した

八幡製鐵所職工罷業の勃發した五日以來晝夜間斷なく警戒の任に膺つてゐた警官六七十名、憲兵百名の食糧としては警察側の希望で製鐵所から毎回一人につき竹の皮包の握飯三箇に澤庵二三切れを添へて支給してゐたが連日の疲勞と食糧粗惡の爲め九日午後八時製鐵所南門附近警戒中の大牟田署刑事製銘丸辰巳、教習所巡査小野福造の兩氏が卒倒して人事不省に陷つた事等が傳はつた爲め警官中に不平が勃發したので十日より各巡査憲兵の食糧は二十錢の汽車辨當を給することになつた(八幡電話)

勞友會幹部

檢事局へ

八日勞友會幹部が八日起訴されると共に事件は豫審に移され小倉裁判所の平田、原兩豫審判事が來福し取調の結果山田榮藏外二名に拘引狀を發し同署に拘引した勞友會長淺原健三は同夜福生

友愛會員と

白仁長官

會見す

白仁長官が歸任するや職工側にては長官に會見せんとの希望があつたが十日午後に至り友愛會神戸支部主任木村氏外六名は製鐵所に長官を訪ひ

一、就業せざる職工に對し何故憲兵巡査をして監督せしむるや

一、時間短縮問題

一、今回職工側の要求は勞友會員のみの要求と觀るや又は全職工の要求と觀るや

等に就き質問したが長官は中川次長が職工側に爲せる通告を敷衍し親切なる回答をしたので一同多少の諒解を爲し近く報告演說會を開く事にした(八幡電話)

東京市の社會

局長は窪田氏

初市會で當選

東京市の初市會は十日午後五時半から開かれ問題の社會局長の選擧をも行ひ窪田文三郎氏を推すことになつた投票の結果

ねば止めたり

▲後場下押　本場島勝の氣先ならず東京の下押しに田金丸山福賣貝小河寶村岡森岡上補池梅賣向作ら四十九圓八十二錢と四錢安氣鈍く始まり岡半の來阪賣進み米地場宮惣の利喰にアトチリく十錢と引緩み其へナ利喰の續出値頃小口買物も注がれて六十二こ下押し地場强氣買に三錢と下へ散會せり

●寶買取組高(前日比較)

當限	十三萬七千五百石	六千三百石減
中限	四十一萬四百石	三萬三千石減
先限	三十六萬二千八百石	五萬三千二百石増
合計	九十一萬七百石	

堂島雜觀(正午)

一の一を に十八錢より二十四錢と反進し場來客筋の利喰と値惚れ賣に十錢と下押せしも阪地の益高報に前米緩いて現はれ地場强氣の買物注がれてアト節由に躍進し九節五十五錢と奔騰し利喰に五十錢と小弛打止めたり

▲後場小弛　東京の引緩みに地場神戸筋の利喰と値頃賣注がれ四十九圓四十九錢と一錢安に始まり其へナ阪地の鈍狀に地場弱氣賣進み四十錢より三十臺に引落し三十錢と低落し三本同事にて一呼吸の商狀を示したり

正米

兵庫正米(二十錢高 格同事)